

7 Lab 黒川再生プロジェクト



Contents：紡績工場跡→(株)MANOMADE アトリエ リノベーション計画

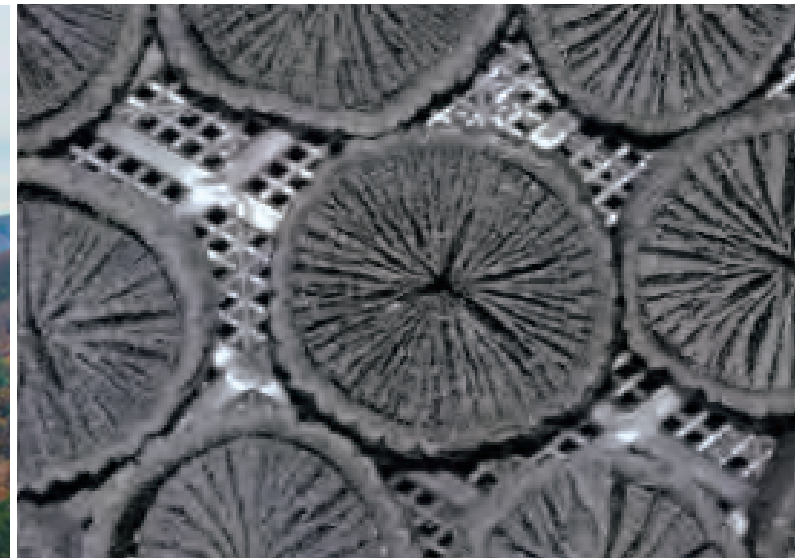


Site：兵庫県川西市黒川「日本の里山」

クヌギを育て、伐採して炭を焼き、また育てるという循環によって日本古来の里山の原風景を今に語り継ぐ黒川。その豊かな生態系の中で様々な生物とともに人々の暮らしがある。断面が真円に近い炭は菊炭として親しまれ、その品質は豊臣秀吉も唸らせるほどであった。しかしその炭焼き農家も集落に残すところ一軒。この黒川においても日本各地と同様に、里山文化が失われつつあるのだ。



炭焼きの文化によって育まれてきた日本一と謳われる里山



名産の高級茶炭「菊炭」



Site：兵庫県川西市黒川「日本一の里山」

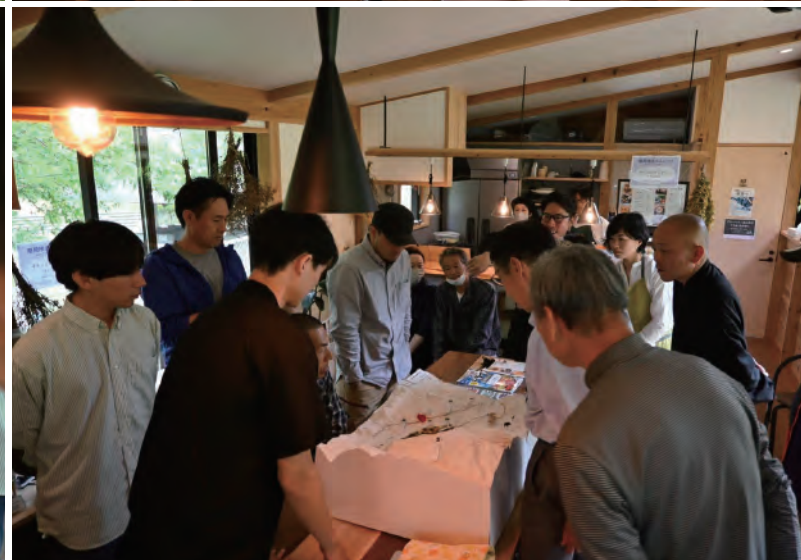
住民から私生活を脅かされると苦情が出てしまうほど多くの観光客（主にハイカー）を集め、愛されてきた妙見の森ケーブルが2023年をもって終了した。利用者減少に加えコロナ渦もあり、能勢電鉄はバーベキューテラスやリフトなどの関連施設も終了せざるをえなかったようだ。



数多のハイカーを虜にしてきた黒川有数の観光名所「妙見の森ケーブル」

Background：卒業論文・卒業設計の取り組みによって生まれた繋がり

卒業論文・卒業設計を通して関わってきた方に対して成果物を発表する機会を設けた。旧黒川小学校における 1 週間の展示に加え、里山ブルーベリー農園 Wacca において発表会を行った。その場で黒川一帯に檀家さんを持つ徳林寺の住職に出会い、ひょうごフィールドパビリオンにおけるプロジェクトのお誘いをいただいた。



卒業論文・卒業設計発表会「里山の未来を語ろう」

旧黒川小学校における作品展示

Outlook：黒川再生の一步となるべく

里山の中で消えゆくものと、残っていくもの、新たに生まれるもの。

そのあいだに立ち、建築によってこれからの黒川の時間と空間を創ることを考える。

建築を学んできた私たちが集落が抱える社会問題に向き合うとき、一体何ができるだろうか。



(卒業設計)

周辺配置図 1/200(A3 プリント時：等高線間隔 200mm)

